心理学シリーズ番外編<その10>

～T 教授の観察ノートから～

2009.7.10　　タツノオトシゴ

ひょうたんからコマ、このシリーズも本編を休んで、今回で 10 回目を迎えることになります。　T 教授の観察ノートを見つけたことから、何とか皆さんの変化球にも対応できました。

重苦しい雰囲気の中、ひんやりとした冷気が居間の中に入ってきます。
この地方独特の、湖面を渡る西風が吹いており、明日の天気が気がかりです。

そこへ執事のリチャードが現れ、S 婦人にメモを手渡していきました。
しばらくして、TICA さんと T 教授も、庭から居間に戻ってきました。
サマンサが冷たいジュースを持って部屋に入いり、S 婦人に合図をしています。
S 婦人:「さあさあ皆さん、冷たい飲物が用意できましたから、召し上がれ」
メンバーはテーブルに置かれたジュースを囲み、席に着きます。
S 婦人:「TICA さんの気分は良くなったこと？」
T 教授の方を振り向きながらと小声で尋ねています。
「実は今、エミリー(ユングのお母さん)からの手紙が届いたの」
「よろしければ、送別会をするので明日の昼前に教会へお越し下さいとのことよ
T 教授:「他に何か書いてないのかい？」と尋ねます。
S 婦人:「きっと、エミリーのことだから、この前の儀式の続きを話してくれるわ」
T 教授を見ながら、S 婦人はは悪戯っぽい笑みを浮かべています。
T 教授:「さて、今回の研究発表もあらかた終わり、明日は夕方の出発時間まで自由だが…」
「先ほど、S 婦人から伺ったのだが、明日ユングのお母さんがお昼に送別会でご馳走してくれるそうだ。帰宅の荷物を準備して、午前 10 時ぐらいに此処を出かけるというのはどうだろうか？」
うさお:「特に予定は無いので、僕は構いませんが…」
「当然、S 婦人もご一緒されるんですよね？」
S 婦人は、軽く頷いている。
hidehiko:「ユング君のお母さんには、一度ご挨拶しておかなければいけないと思っていました」
Yuko:「何だか、ワクワクしてくるわ！」
「何かサプライズが有りそうな予感がするし」
由佳:「もしかしたら、私の疑問も解けるかも…」
T 教授の提案に、皆は行く気満々のようです。

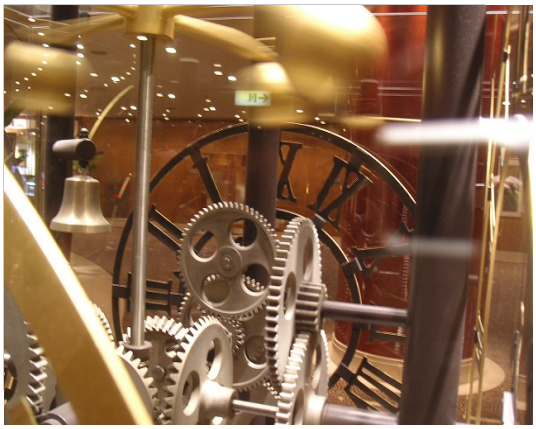
T 教授:「それでは、各自部屋に戻り、明日の準備をしておくこと！」
「では、本日はこれにて解散」
横で聞いていた S 婦人が静かな口調で付け加えました。
S 婦人:「時間も遅くなったけど、Tomy.Jr さん TICA さん、後で私の部屋に来てもらえないこと？」
「チョッとお渡ししたい品物があるので」
呼ばれた二人は、にこやかに微笑んでいるT教授を見て10 分ぐらい後に行く旨を伝えたのち、部屋に戻りました。

T 教授のメモ

いよいよ明日で合宿も終わり、各自の研究テーマに向かっていく準備は整っただろう。
あとは、9 月の卒業に向けて、論文さえ纏めてくれれば心配ないのだが…

居間のテーブルの片付けも終わり、片隅のソファーには何人かが残っています。
T 教授と S 婦人は早々と部屋に戻っていき、Yorge さんと健さんが何やら話し合っています。
TICA さんは、Tomy.Jr と S 婦人の部屋を訪問する時間を相談し、15 分後に行く事にしました。
二人は T 教授に挨拶し、場所を確認してから、S 婦人の部屋を訪れています。
一階の小さなホールを通り過ぎ、廊下を突き当たると階段がありました。薄暗い階段を登るとそこが S 婦人の居間です。TICA さんが Tomy.Jr を振り返りながら扉の前に立ち軽くノックしました。

TICA:「先ほどの件で、Tomy.Jr と二人で来ましたが、いらっしゃいますか？」
部屋の中から S 婦人の声が聞こえてきます。
S 婦人:「どうぞ、鍵は開いていますよ。お入りなさい」
Tomy.Jr:「失礼します！」と二人で扉を開け、部屋に入っていきました。
部屋に入ると、周りの家具とは不釣合いな、得体の知れない機械が置いてあります・
大きな歯車が付いており、薇仕掛けで動いているようです。
Tomy.Jr:「こ、これは、何ですか？」と驚いた声に、S 婦人が微笑んでいます。
S 婦人:「英国に住んでいる私の友人からの贈り物なのよ」「本当は、オルゴールなんだけれど、調子が悪くて今は修理中なの」

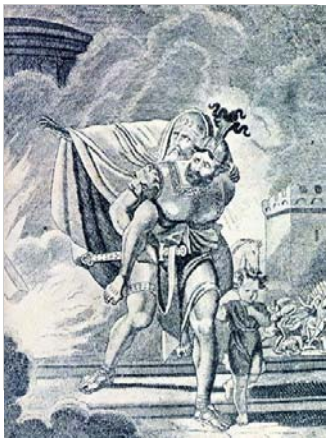


TICA:「これって、夜中に変な音出しません？時々規則的な音が聞こえたんですが…」
S 婦人:「そうなのよ、友人が本体だけ置いていったのは良いけれど、困ったものね 」
「そこで TICA さんにお願いがあるの。
この部品をスイスのお店に届けて欲しいの
部品を修理すれば直るらしいわ」
TICA:「構いませんが、どうして私がスイスへ行くことをご存知なんですか？」

S 婦人:「実は少し前に、T教授から研修後の皆さんの予定を聞いたのよ」
「TICAさんがチューリッヒのご親戚の所へ行くだろうという事も…」
「そこの時計屋さんに届けていただけたら助かるし、お礼もさせて頂くつもりよ」
TICA:「ありがとうございます。でも、研修でこの場所を使わせて頂いたのですから、お礼の必要なんかは有りません。お役に立てるのなら、喜んでお手伝いさせていただきます」
傍にいた Tomy.Jr も、頷きながら聞いています。

Tomy.Jr:「ところで、私にも何か御用が有ったのでは…？」
S 婦人:「そうそう、貴方へ渡すものは此方のテーブルに用意しておきましたよ」、「これを貴方に預けますので、本来の持ち主の国へ返してあげて欲しいの」
S婦人が書棚の方へ歩いていき、前にある小さなテーブルの上のカバンと、袋に入った何かを持ってきました。

Tomy.Jr:「本来の持ち主って、何処の国なんですか？大きさの割りには重いけれど、中身は何ですか？」
S 婦人:「T教授に調べてもらったのですが、古代インカ帝国で作られたそうよ」、「世界中に同じものが幾つかあって、何故かその一つが此処にあるそうです」
Tomy.Jr:「ヒョットして、最近世間で噂になっている水晶どくろ？」
S 婦人:「良くご存知ね、あまり噂が広まらないうちに、返してあげたいと思って…、此方の件に関しては、旅費など含めて必要な経費とお礼を用意しておきました。決して私の名前を出さずに、速やかに返してきて欲しいのです」
Ｓ婦人の真剣な眼差しに、Tomy.Jr はそれ以上質問が出来なくなりました。
Tomy.Jr:「分かりました。S婦人の名前を出さず、しかるべき方法でお届けしてきます」
中身を確認した Tomy.Jr は何かに憑かれたような、嬉しそうな表情を浮かべています。
二人は遠慮がちに部屋の様子を観察し、この館の持ち主について探るのでした。
古い歴史を感じさせる様式ですが、何処と無く気品も感じさせる佇まいです。
TICA&Tomy.Jr:「ご依頼の件、必ず届けておきますので、ご安心下さい」
用件を済ませた二人は、Ｓ婦人の部屋から立ち去りました。



Ｔ教授のメモには、別の記録も残っていました。
健さんが部屋に来たので、Ｓ.フロイトへの紹介状を書いて渡しておいた。古代の歴史に興味を持っており、今回の研修後は遺跡調査の手伝いをしに、ギリシャの対岸へ行く予定らしく、フロイトの所へ行くのは 3 ヶ月くらい先になりそうだ。Ｓ婦人（ヘレーネ）は明日の昼食会の後、この前の続きをするつもりだろう。
今度は上手くいくだろう。(^^;
今回の HP 活用講座は　『アガメムノーン』 [編集]です。

トロイア戦争に参加していたギリシア軍総大将アガメムノーンがイーリオス(トロイア)を陥落させ、10 年ぶりにミュケーナイに戻るところから話が始まる。トロイア戦争へ出征する際、アガメムノーンは娘イーピゲネイアを女神への生贄として捧げた。これを怨んだ妻のクリュタイムネーストラー(ヘレネーの姉)は、同じくアガメムノーンに恨みを抱いているアイギストスと深い仲になり、凱旋してきたアガメムノーンおよび捕虜として連れられてきたカッサンドラーの殺害を図る。

トロイア戦争におけるギリシア側の勝利という大義のためなら、娘の命を奪うこともやむをえないという父アガメムノーンにとっての正義は、愛する娘の命を戦争ごときのために奪ってはならないとする母クリュタイムネーストラーにとっての正義によって倒される。

帰還したアガメムノーンと捕虜カッサンドラーが館に入ろうとすると弔いのコーラスが流れ、館の中に消えると断末魔の叫び声が響く。二人の遺体とともに妻クリュタイムネーストラーが現れ、娘を殺した犯人に対する復讐は正義に基づくものであると訴える。

アガメムノーンの殺害後、妻のクリュタイムネーストラーは息子のオレステースをミュケーナイから追い出し、娘のエーレクトラーを冷遇していた。こうした中、成人したオレステースがミュケーナイへと帰還し、父アガメムノーンの墓に詣でて、アポローン神に導かれ復讐を誓う。オレステースは、父の墓場でやはり母への復讐を願う姉エーレクトラーと出会い、母クリュタイムネーストラーと情夫のアイギストスの殺害を図る。

旅人に扮したオレステースは母の館に向かい、オレステースの骨壺を持ってきたことを伝える。母クリュタイムネーストラーは嘆き悲しみ、オレステースを館に招き入れる。オレステースはまずアイギストスを殺害し、ついに母クリュタイムネーストラーを殺そうと近づく。旅人の正体がオレステースと知ったクリュタイムネーストラーは、息子に向かって必死の命乞いを行う。しかし、オレステースは、情夫に愛を注ぎ夫を殺害した母クリュタイムネーストラーを責める。それも運命であったと弁明する母に対し、それならここで殺されるのも運命として、オレステースはついに母を殺害する。こうして、オレステースはアポローンの命じた通り父の敵討ちという正義を果たしたが、その結果、母親殺しという重い運命を負うことになった。母の怨念や、かつて復讐をそそのかした復讐女神(エリーニュス)に襲われる幻覚に苦しみ、オレステースは狂乱状態に陥る。復讐女神(エリーニュス)に付きまとわれるオレステースは、放浪の末にデルポイの神殿にあらわれ、アポローンの指示に従いアテーナイのアクロポリスにある女神アテーナーの神殿に向かう。アテーナーを裁判長として、オレステースを弁護するアポローンと、オレステースを母親殺しとして告発する復讐女神(エリーニュス)の間で裁判が行われる。当時のアテーネーでは直接民主制が行われており、アテーナイ市民 12 名が陪審員として判決を左右した。陪審員の判決は、有罪・無罪が半々にわかれるが、裁判長のアテーナーがオレステースを支持したため、オレステースは無罪放免とされる。判決を不服とする復讐女神は激高するが、なだめられてアテーナイの慈しみの女神(エウメニデス)となるよう説得されると、エリーニュスたちはこの申し出を受け入れる。こうして、憎しみの連鎖はついに断ち切られ、ギリシア世界に調和と安定がもたらされ終幕する。

エーゲ海へ足を延ばした健さん、ミイラ取りにならなければ良いのですが・・・